第V部 中特ホールディングスという生き方

今を時めくリバーホールディングス（旧スズトクホールディングス）グループ7社の中で中特ホールディングスさんは異色の存在だ。回りはみんな鉄スクラップ主力の問屋さんで、中特さんだけが産廃主力。中特さんとリバーホールディングスさんでどういう接点があったのかと聞いたら、橋本さんにあんたが紹介したんでしょと叱られた。すっかり忘れていた。今回はその中特グループを率いる橋本さんにお話を聞いた。

ー橋本さんとお仕事の話はあんまりしたことがなかったんですが、今度どうしてもお聞きしたい事情が出来た。あなたのところの言ってみればハードな仕事ね。脱塩・脱水、汚水処理、脱塩・分離・改質処理、それに下水道管理まで、ああいう仕事をしているのは僕らの業界にはそうない。フランスの産廃業者の最大手ヴェオリア、ここは年商1兆円という世界最大の業者です。それが日本法人を立ち上げ、あっという間に浜松市から下水道管理の委託事業を取った。この延長線上でいずれは行政の廃棄物・資源物の処理委託を取ろうとする。今、日本の市町村における資源物、廃棄物処理は大半が委託という形で我々の業界が請け負っている。これを取られないためには我々もヴェオリアよりも先に行政のサービス事業を取り込まなくてはならない。そういう状況なんでここは是非中特さんのお知恵を拝借しなくてはならなくなった。橋本さんのところは確か汚水処理から業務を開始していますよね。

橋本ー父と母がうちの会社を立ち上げて50年になりますが、最初は徳山清掃という社名で汚水処理からスタートしました。それからそちらの方面で業務を拡大してきて、周南市周辺を含めて行政のお仕事をいくらか受けてやらせて頂いています。

ー行政さんの信頼を勝ち取るために何かしていることや心がけていることは。

橋本ー私の考えは社会の役に立てば立つほど会社が発展する、会社が発展すればするほど社会のお役に立つ、そういう会社であり続けることが私共の使命ではないかと。

ーあなたの会社の広報誌を送ってもらっていますが、なるほど地域社会の様々な活動に積極的に参加している、地域社会に溶け込んでいるのがよくわかります。2年ほど前に大津島（周南市にある人間魚雷回天の訓練基地があったところ）に行きました。船着き場のおばさんと話をしていたら「中特さんがなければこの辺りの島はどこも生きていけなくなる」といっていました。こまめに地域社会のためにやっているんだなあと感心した。今ね、海外の大手産廃業者が金にものを言わせて行政のサービス事業を取り込もうと強烈な営業をかけている。この間決まった浜松市なんか最初にボンと20億円を出して権利を買い取った。我々ではこういうのってなかなか太刀打ちできない。20億円なんて大金、どう考えたってできっこない。人口減少で地域自治体公共事業は軒並みど赤字をこいている。

橋本ー弊社も警戒しています。どうしたらいいんでしょうね。

ー僕はね。行政と合同で勉強会をやるのが一番いいと思っている。とにかく行政に密着して意思の疎通を図る機会を設ける。いってみれば洗脳教育ですよ。これこれこういう勉強をしたいんですが教えていただけませんかとお願いして意見を聞きながらこっちの考え方を浸透させていく、面倒くさい作業ですがこれが一番いい。それとね。僕はあなたというかあなたの会社のもう一つの考え方。社員とどういう風につきあっていくか。社員は会社にとって一番大切な存在、社員とその家族を守ることを最大の目的とし、事業拡大よりも優先するとおっしゃっておられますよね。

橋本ー前に東日本大震災の時に仙台市の㈱サイコーさんの社長さんのお話を聞いて感動したことを覚えています。津波でヤードを全部流されて、社員を集めて社長さんが演説をぶった「社員は一人といえどもクビは切らない。ここでこの場所でもう一度事業を再開する」。あのことを覚えています。社員と会社は運命共同体なんだと改めて思います。

ーリバーホールディングスさんのグループに入っておられる。産廃業者であのグループ7社に入っているのはあなたのところだけです。きっかけは。

橋本ー小松さんが鈴木孝雄さんを紹介したじゃないですか。

ー僕はすっかり忘れていた。

橋本ー小松さんが仙台で開催したセミナーに参加しなさいといってきたので参加したら、鈴木孝雄さんを紹介されたんです。その後、海外視察で何度か同じ釜の飯を食い、考え方が似ているということで声をかけて頂いたのです。

ー入った感想はいかがですか。

橋本ーとにかく情報量、勉強の中身、勉強会のレベルの高さ、参考になることばかりです。

ーこれからは僕たちの業界でも、上下水道管理の請負やその他の行政がやる様々なサービス事業を請け負うという作業が必須になってくる。あなたのところを入れといてよかったとみんな思うんじゃないかと思います。ところで「ダチョウ」は元気ですか。僕が訪問した時は7羽だったんだけれども。ダチョウのタマゴから作るハウスダストスプレー。そういう発想ができるあなたの会社はすごい。あれはもともとスーパーから出る生ごみをダチョウに食わせようという発想で始めたんでしょ。

橋本ーそうです。焼却処理に頼らない環境にやさしいリサイクルとして思いつきました。食品リサイクルとしては正直そんなに儲かりませんが、弊社を知ってもらうきっかけとしての宣伝効果は絶大です。

ー昨年から山口県の産廃協会の副会長に就任された。女性で産廃協会の要職に就くなんてなかなかない。

橋本ーほかにいい人がたくさんいるのにどういうわけか選任された。

ー女性の活躍が期待されていますが、女性オーナーとしての心がけは。

橋本ーあえて挙げるならば、働く女性の気持ちに沿えるので、女性を甘やかすこともなく、また差別することもなく、男性と公平にチャンスを与えることが出来るんじゃないかと思っています。

ー3月15日に仙台のセミナーであなたのお話を聞く機会がある。東北にもね。結構女性の経営者がいる。参考になるようなお話を期待しています。

第１回山口県女性活躍推進知事表彰で女性のチャレンジ賞を受賞（2016年）

アイドル的存在のダチョウ

僕からのメッセージ

7年前に開催された「上海万博」で初めてお会いした。それからブータンやミャンマーにご一緒したりした。関西出張の途中周南市まで足を延ばしたときに橋本さんの会社を訪問した。僕らの業界とは違った世界を案内していただき、彼女のしている仕事に興味を抱いた。その興味が「確信」に変わったのはフランスの世界最大手の産廃業者であるヴェオリアが日本法人を立ち上げ、ついこの間、静岡県浜松市から下水道管理の委託を取得したという報道を見てからだった。下水道を取られたら次は上水道、ゴミや資源物の世界にまで触手を伸ばしてくることは明らかだ。そうなる前に僕らも上下水道を含めてあらゆる行政のサービス事業部門を勝ち取らなくてはならないと思った。今つきあっている企業でそういうところは少なくとも僕の周りには橋本さんのところしかない。

そういう思いで中特ホールディングスの企業広告を出して欲しいとお願いした。

し尿処理や汚泥の処理や下水道の管理や汚染土壌の洗浄なんかもやっているが、橋本さんの会社のすごいところはもうほぼ完ぺきに周南市内で市民権を得ていることだ。

6月に岡山市で開催される鉄リサイクル工業会の全国大会に参加されるのであればちょいと足を伸ばして中特さんを訪問されてはいかがか。きっと役に立つと思います。

（小松）

中特がやっていること

○ 採用活動

- 合同企業説明会への参加
- 自社会社説明会の開催
- 地元大学や高校の就職担当との関係強化、大学主催就職イベントなどへの参加
- 採用特設サイトの開設

小学校出前授業

○ 社員教育

- 社員研修「中特アカデミー」の開催
  （必須科目として理念教育・廃棄物処理法・マナー研修・会計知識・人間力向上研修等を実施。選択科目は、各部署主催の社員による社員のための研修会とし、教える側・教えられる側双方の学びを目指す。）
- リーダー層育成のため「自立型リーダー研修」の実施
- 部長クラスに対して「プロ幹部教育」の実施
- 事故撲滅研修会（月１回）の実施
- 各部署部内勉強会の実施

社員全員集合

○ 職場環境

- ワークライフバランスの推進
  （「業務の生産性向上・時間外労働の削減」を経営目標に掲げる）
- 女性社員の活躍促進
  （女性社員を中心としたプロジェクトチーム「ANG ネットワーク」の活動、リサイクル７社包括業務提携（ROSE）女性分科会への参加）
- 男性育児休業の取得促進
  （「やまぐち子育て応援企業」「やまぐちイクメン応援企業」への登録）
- 社員研修旅行（年１回）の実施
- 社員親睦会活動
  （社員による自主運営。日帰り旅行、バーベキュー、ビアガーデンなど…）
- グループ内相互現場安全パトロールの実施
- 「緊急事態対応訓練」「消火訓練」「車両誘導訓練」の実施

橋本　ふくみ

1987年12月	中国特殊㈱入社
2007年８月	中国特殊㈱代表取締役就任
2012年４月	㈱中特ホールディングス代表取締役就任
2015年９月	中国特殊㈱代表取締役辞任
〃	㈱リライフ代表取締役就任
2016年６月	（一社）山口県産業廃棄物協会副会長就任

脱塩分離改質施設

汚泥脱塩・脱水処理施設

環境と人々を笑顔に、お客様と"HAPPY/HAPPY"の関係を

私たち中特グループは、地球の環境をグローバルに考え、生活から出したものすべてを処理し再生させるというコンセプトのもと、グループのネットワークを活かし、限りある資源を大切にする循環型社会の一役を担います。よりよい環境をつくり育てて次世代に笑顔をつなぐために、これからも地域社会に貢献してまいります。

会社概要

商号	**株式会社中特ホールディングス（中特グループ）**
創立	平成24年4月2日　※中国特殊株式会社は昭和41年2月1日
資本金	3,000万円　※グループ計 1億6,500万円
グループ本部	株式会社中特ホールディングス・本社
所在地	〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078番地の1
	０１２０－１０５－５６８（ポータルハートデスク）
連絡先	TEL: 0834-26-0500 / FAX: 0834-25-2856 email: info@chutoku-g.co.jp
役員	中特グループ　代表　吉本　英子 株式会社中特ホールディングス　代表取締役　橋本　ふくみ 株式会社吉本興業　代表取締役　吉本　妙子
従業員数	100名　※グループ計

中特グループ

中国特殊株式会社

創立	１９６６年２月
資本金	２，０００万円
代表者	代表取締役社長　吉本英子
事業内容	一般廃棄物収集運搬業、 産業廃棄物収集運搬業、 産業廃棄物処分業、 下水道維持管理業、建設業
従業員数	３５名

中国特殊の強力吸引車

ポータルハートサービス事業のパッカー車

株式会社吉本興業

創立	１９６７年７月
資本金	１，０００万円
代表者	代表取締役社長　吉本妙子
事業内容	一般廃棄物収集運搬業、 ポータルハートサービス事業
従業員数	２５名

株式会社リライフ

創立	１９８９年２月
資本金	９，５００万円
代表者	代表取締役社長　橋本ふくみ
事業内容	産業廃棄物収集運搬業、 産業廃棄物処分業、 リサイクル事業
従業員数	２５名

すべては次世代のために・・・
株式会社リライフ
下松リサイクル工場
処理水槽

汚水処理施設

株式会社社藤井興業

創立	１９９３年４月
資本金	１，０００万円
代表者	代表取締役社長　平岡仙吉
事業内容	一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、貯水槽清掃業
従業員数	５名